

要法慶落裡庫 結制・晋山

十月四日(木)に決定！！

平成二十二年の新年号に、**冷めない「うち」** ー晋山式ー

と題して晋山式を三年後ぐらいにはやりたいとみなさん知らせてから、早や三年、まだまだと思いつつもその三年目になりました。

去年のお盆前には位牌堂、物置が完成し、年末には位牌壇がはいりました。水屋(流し・花瓶置き場)も作り、本堂で供養中牌堂へスムーズにお参り出来るようになりました。お盆には是非ご

平成二十二年の新年号に、冷めない「うち」 ー晋山式ー

と題して晋山式を三年後ぐらいにはやりたいとみなさん知らせてから、早や三年、まだまだと思いつつもその三年目になりました。

去年のお盆前には位牌堂、物置が完成し、年末には位牌壇がはいりました。水屋(流し・花瓶置き場)も作り、本堂で供養中牌堂へスムーズにお参り出来るようになりました。お盆には是非ご

家族でお参りして下されば先祖さまも喜ぶ事だと思えます。

さて、記念事業(建物)は終わりましたが、晋山法要は上にも大きく有るよう十月四日(木)に挙行する事に決定いたしました。後二カ月切りました。ご縁のある寺院様方三十人、四十七人の和尚様方に案内状を出しました。

六月二十四日には、関の洞円寺さんで、同じ様な法要(晋山・結制、本葬)が有り、参加しましたが、立派な新命さんが誕生し、先住(父親)の本葬も立派に勤めあげておりました。私が、この寺に来

てから六年目になります。正直な気持ち、こんな早く晋山式を出来るとは思ってありませんでした。これもひとえに檀家の皆さんのご支援ご理解が有ったからこその事だと思えます。

まずは、十月四日無事円成をめざして行きたいと思えます。

日頃から当寺に對しまして、ご支援ご協力を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

さて、平成二十二年より、二ヶ年に亘つての寄付金ご協力のお願いして来た訳ですが、まだ納めてない方々がおります。今年のお盆迄にどのお願いでしたので、何とぞよろしくお願ひ致します。日にちも、十月四日(木)と決まり、いよいよという気持ちです。

建物是我々の檀信徒の後世への財産です。

そして晋山式は、新しい住職を内外共に祝いし、寺や檀信徒の安寧を祈願する貴く、大変有難い儀式であります。

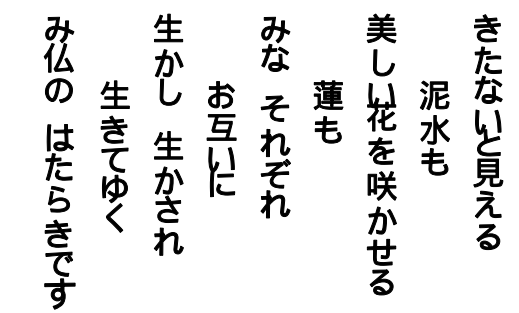
まだまだ仏具、環境整備等に不備なところがあります。金額が見えないと買えるものも買えなくなります。

法要に支障をきたさない為にも、何とぞ、速やかにご協力下さる様、この紙面を借りまして、お願い申し上げます。

護持会
会長 小島敏式

お釈迦さまは泥の中から出て美しい花を咲かせる
蓮も

みなそれぞれお互いに生かし生かされ生きてゆく
み仏のはたらきです



発行所 普門山 林泉寺
三戸町斗内字 寺牛25
〇一七九
二五二八五〇
啓誠

三年越しの法要 円成めざして

三法印 (三つの真理)

諸行無常偈 (雪山偈)

「諸行無常、生かすとして生きるもの命を頂戴するということか」という深い意味が良く解ったかと思えます。

さて今回からは、表題にもある様に、

三法印

諸行無常 (しよぎやうむじょうげ)
是生滅法 (ぜしやうめつぽう)
生滅々已 (しやうめつじ)

寂滅為樂 (じやくめつゝゐらく)

「法印」は仏教の教えの旗印である。綱領(スローガン)という意味で、仏教を伝教たらしめる根本的の教説が三つ(一、諸行無常、二、諸法無我、三、涅槃寂靜)で、「三法印」になる訳です。

これに、「一切皆苦」を入れて、「四法印」とも云われ、涅槃寂靜の代わりは一切皆苦を入れて三法印とする説もあるそうである。なるべく平易に解説していきたくと思えますので、そんなに難しく考えないでお付き下さい。

まず最初に、「三法印」に入る前に、お釈迦さまが悟りを開くに至った過去世の因縁としての物語があります。「諸行無常偈」といいます。

ラヤの山中で真理を求めてひたむきに修行する、その真摯な態度に感動した帝釈天(仏法の守護神)は、悪鬼(羅刹)のすがたに身をかせて修行者の前にあらわれた。そして「諸行無常、是生滅法」と声を出して雪山偈の半分を唱えたのでした。修行者は初めの「諸行無常、是生滅法」の二句を聞いて大いに歓喜し、あとの二句も聞きたいと願って鬼に話しかけた。「今の言葉はお前が唱えたのか。もしそうならば是非とも続きを聞かせて欲しい」と鬼は答えた。「そうだ、ワシが唱えたのだ。もちろん続きも知っているが、腹がへって続きを唱えることができない」といふのであった。

修行者は「それではお前の食べ物を私が探してこよう」と聞くと、「人間の血と肉を食べたい」と言う。そこで修行者

は、真理を求めために命を捨てる覚悟をして言った。「それでは私の身体をあげるから続きを聞かせてもらいたい」ということになり、鬼は残りのことばを唱えたのであった。そして、鬼からあとの二句を聞くと、それを岩に刻み谷底に身を投じた。その瞬間、鬼は帝釈天の姿になつて、やさしく修行者のからだを受けとめた。この修行者といふのが前世で修行している時の釈尊であつた、といふのです。

あとの二句は「生滅々已、寂滅為樂」です。この四句を諸行無常偈といい、土葬の頃は葬儀幡といつて四枚の幡に書いて行列をしたらしいです。

幡は仏菩薩を讃える役目を持つていました。この無常偈は、修行中の釈尊を雪山童子(せつせんどうじ)といいましたので、雪山偈ともいいます。

つづきは次回へ

今年(平成二十二年)は四年に一度のオリンピックの年で、後半に入りました。この記念すべき年に晋山式をするという事は、忘れられない年になると思えます。

日本国中から期待され、重い重いプレッシャーを背負い、それでも挑んでいくアスリート達、すごい、うれしいメダル、悔しいメダル、努力した分だけ、勝ち負けよりも何かがあるはず。

解き放たれたのでしよう、競技終了後の、勝つても負けてもあの満面の笑顔、素敵でした。

愛想笑いでもなく、含み笑いでもない、作り笑いでもない、本物の笑顔の似合う人になりたいものです。

喜怒哀楽は素直に出した方がいいかもしれない・・・小坊

編集後記



曹洞宗の行事

法戦式

—法戦式ってなあに—

いよいよ本番

「前記」得度式」と「晋山式」の説明を致しました。少しづつ意味が解つて来たかと思ひます。今回から「法戦式」てなあにの説明をしたいと思います。曹洞宗のお坊さんは得度の後、修行を積み重ねてくると、皆さんが次の学校へと進学するようにお坊さんとしての段階が上がつていきます。その次の段階への関門といえる儀式が、今回お話しする「法戦式」です。



「法戦式」という名前の由来について述べておきましょう。これは文字通り、教え、(法)についての激しいやりとり(戦い)を行うので、「法の戦い」という名がつけられたのです。また、質問と答えを繰り返すので「問答」ともいわれます。皆さんのこの式に出た事のある人は、大きな声で元氣よく問答を戦わしている姿を覚えておられるでしょうか。「法戦式」が、いつ行われるかというところ、お坊さんが集まつて修行する「結制」と呼ばれる時に行われます。結制とは、修行道場において夏と冬の年に二回、三ヶ月にわたつて行われます。その結制期間中に集まつたお坊さんの中から、修行の仲間を導いていくリーダーの僧(首座)を決めます。「首座」というのは、もともとは坐禅堂での一番

上の席(座)のことです。転じて、ここにすわり、修行僧の先頭に立つ僧の役名になつたのです。そして首座は、多くのお坊さんの修行をひっぱつていくことが求められています。起床の時間も一番早く、儀式のときも坐禅の時も、さらに掃除の時さえも先頭に立つて、全体の手本となるような厳しい姿勢でのぞみます。この首座の役についてお坊さんが、住職に代わつて修行僧達と「問答」して、どれほど仏教を理解しているかを試すのが「法戦式」です。以上のように首座になるには、長い修行を経て、よく勉強していることが必要です。



得度をしてからお坊さんになつてから何年かしてようやく首座になれるのです。さて、一般の寺院では、年に二回の「結制」を必ず行つている訳ではありません。それでは、皆さんのお寺では、皆さんのお寺で行われるのでしょうか。それは、主に「晋山式」という重要な儀式の時に併せて行われるのです。「晋山式」とは、お寺に住職が新しく入られる時の儀式です。そのお寺にとつて何年か一度、もつといえは十年に一度しか行われぬようにならねばならないのです。一般寺院での首座の役は、今回お話しする「法戦式」だけのためです。しかし、先ほど述べたような、修行道場の首座と同じ責任と心構えが必要とされるのです。さてこの式は、ほかの法要の開始の仕方とは異なり、首



座は大鼓が打ち鳴らされる中、住職や法要に参加するお坊さん達とともに本堂に入つて来るのです。これを「大播上殿」といいます。大播とは、雷の音をあらわしたもので、竜が登場してくる場面をイメージしています。中国の伝説に、コイがその激流を登ると竜になるといふ大きな関門の話があり、その「関門」を「登竜門」といいます。「法戦式」は、お坊さんにとって次の段階へ上がるための関門であり、まさに「登竜門」といふべき儀式なのです。そして、この「大播上殿」の太鼓のひびきは、これから竜となる首座の登場を表しているのです。

施餓鬼? 施食? 孟蘭盆会法要

今年も仏教行事の最大のイベント「お盆」がやってきました。都会へ働きに出たり、学生だったり家族や親せきの皆さんが休暇をとり、ご先祖さまに会いに帰省します。この月には、各寺で「施食法要」が行われます。お盆は、父母祖先に対する孝順供養を教えるものであり、施食は無縁の精霊に供養する慈悲行の大事な事を教えるものであります。古代インドでは祖先の霊は子孫が食べ物を供えてくれることを待ち望んでいて、これを食うのを中国で鬼と信じていた。この觀念が仏教に取り入れられ、餓えて食べ物を持つて死んでいる死者の霊に食べ物や供養する施食が行われ、餓えて鬼と信じていた。鬼といふ字自体日本人にはいい感じを与えないが、餓鬼といふと、いかにも響きが悪いですね。子供の事を餓鬼などというのは、い

とと騒ぎ、あれ欲しいこれ欲しいとねだつたりする所からきています。だから食欲でいつもイライラ、ガツガツしている人のことを「まるで餓鬼だ」といふ。地獄・餓鬼・畜生の三悪道の一つとみています。そんなわけで「施餓鬼」といふのは、お盆の先祖は餓鬼だといふのか、などとクレームをつける人がいます。そこで、

縁、三界の万霊に供養する法要の内容が変わつたわけでは無いのです。すでに子孫が絶えて供養してもらえない無縁の精霊はおびたいたい数になるかと思ひます。父母祖先に対すると共にそれらの精霊に供養することは人間として奥ゆかしいことであり、この供養の心があつてこそ慈悲行も充実してくると思ひます。どうか、ご先祖からは冥土の話聞き、私達は、こちらの変わり様を、ご馳走を食へながらお話ししてみたいかがでしょうか。

6月と8月の境内草刈り

毎年恒例の草刈りと草取りを年二回お願いしている訳ですが、今年の当番は、6月に下本村澤田道憲さん担当(沼ノ久保 別当沢野月の4地区の方々にお願い致しました。ごくりうさまでした。大変綺麗にして頂きました。ありがとうございます。一回目は、8月6日(月)早朝6時より、下本村(澤田良實さん担当)武士沢(小笠原良一さん担当)武士沢(澤山栄一さん担当)の各地区にお願い致します。大変ご苦労様でした。



今年の初盆の方

平成二十三年 六月二十六日より
平成二十四年 六月二十五日まで 逝去された方です。お盆(八月十三日)までに四十九日を終えられた葬位です。

くから食へても満足するところが無く、もつともつ



施食会のご案内

八月十四日(火曜日) 午前十一時より

当寺本堂に於いてご供養します。 供養料 一千元 同封の申し込み用紙に お名前を記入し 供養料を添えて 当日本堂受付まで お持ちください。

尚、当日お出でになれない方は、前もって随時受付いたしますので、ご希望お申し込みください。

